

それっぽく生きていきたいそれっぽく洗濯物を風に揺らして

生活とは、ぐにやりと倒れる食べかけのケーキのようだ。
 短歌集『アーのようなカー』にもらった読者の感想には「日常」や「生活」に寄り添った作品だと書いてもらうことが多い。しかし、実際のところ寄り添おうと思ってもすぐに倒れてしまうのが「生活」で、私は週末のたび「生活を立て直そう」と言うのが口癖である。

机の上には郵便物や本や土人形づくりの道具が積みもり、そこから勝手に生えるタケノコみたいにコップやペットボトルが並んでいる。立て直そうにもどこから手をつけて良いかわからない。生活は育むものではない。既に損なわれた状態からスタートし、少しましな状態にするものなのだ。

砂浜の感触知らずベランダで干からびているビーチサンダル

コロナで自宅待機だった頃、ベランダにアウトドアチェアを運んでよくそこで過ごした。隣のベランダとの仕切り板に向かって座ればギリギリ身体が収まる程のスペースだが、アロエの鉢植えがあり、目の前の睡蓮鉢にはエビがいて、さながら水辺のオアシスという風だ。時々踏み台をテーブルがわりに紅茶を置いて、オアシスを楽しんだ。

ちようど「あつまれどうぶつの森」が流行っていて、ゲーム機を持っていなかったのでこのベランダが私の島だった。動物はあそびに来ないが、たまに下から大家さんや一階の服屋の店主が世間話している声が聞こえてきて、その度に気付かれないよう身を潜めるのだった。

反抗期になった布団がねじくれてカバーの中で暴れて困る

生活は時々イレギュラーな事態が訪れる。布団カバーの内側で結んだ紐が外れて中の羽毛布団がぐるぐるになってしまった時などは、気持ちが悪いと思いながらも1ヶ月くらいはそのままで。1ヶ月に一度訪れるか訪れないかの、朝から不思議と調子が良くて何でもやれる気がする未来の私が直してくれるまで待つしかない。

他にも洗ったばかりの洗濯物が埃の粒だらけになると思ったら、ゴミ取りネットが圧縮された埃でパンパンの時。さらにそのネットが破れていて縫わなきゃならない時。それが仕事だったら数分でやれることが、自分のこととなると何ヶ月もかかる。結局布団カバーは諦めて、剥き出しの花柄のまま寝ている。

デラックスあまおうとただのあまおうの値段が同じ不確かな日々

物の値段とは不思議だ。喫茶店では水が半分を占めるアイス珈琲と、手間がかかるサンドイッチが大して変わらない値段なのが不思議で、お茶休憩のはずが腹を満たす方を選んでしまう。

おばあちゃん家で見かけたが積極的には食べようと思わなかった、オブラートに包まれた固めのゼリー菓子が1袋300円以上もすると知った時は驚いたし、まさか干し芋が上級ランクのおやつだったとは。人間は干されると存在感が薄まるが、芋界では価値が上がる。スーパーによっては、デラックスあまおうと普通のあまおうや、ゴールドキウイとグリーンキウイなどが同じ値段で並んでいる。デラックスやゴールドの価値とは……。

いけるよと送り出されてお買い得たすきを掛けた瘦せた大根

成城石井と西友の割引品は趣きが異なる。高級スーパーの割引惣菜やスイーツは、憧れの先輩が気さくに話しかけてくれた気持ちになるが、庶民派スーパーのワゴンでしなしなになった水菜などは、徹夜明けで5歳老け込んだ同僚の顔を見てしまった気持ちになる。とはいえ、安売りワゴンも店員さんが奥から運んできた当初は人が群がり輝いていた。一番悲しいのはコンビニの隅に追いやられた割引コーナード。数日前に終了した節分豆などの季節品や奇をてらった味のスナック菓子が、電池や謎のキャラクター人形等と一緒に並ぶ。あそこには行きたくないと思われられる商品たちの墓場なのだ。

ティファールと浮気してたら錆びついた鉄フライパンと丁寧な暮らし

丁寧な暮らしに憧れていた。掃除機がなくても重曹と雑巾があれば十分。手も顔も体も無添加固形石鹸で洗い、仕事には水筒を持参。その「丁寧」の勢いで鉄フライパンも手に入れた。木の持ち手には名工らしき名が刻まれており、手入れをして10年以上付き合う相棒になるはずだった。しかし、1年経った今、コーティングされたフライパンの上を目玉焼きがすすい泳いでいる。石鹸も泡で出るタイプを選んでしまおうし、お茶はAmazonセールを狙って箱で買っている。鉄の名工と丁寧な暮らし、ごめんなさい。本当に欲しかったのは便利さと節約でした。そして「楽しんで怠けたい自分」と丁寧な暮らしをいこうと思う。